

森林整備におけるナラ枯れ対策は



小島 崇弘
誠友会
(55分)



問 ナラ枯れは近年、全国的に里山で拡大し被害が増加している。本市においても北部地域を中心に11本の被害が確認されている。放置しておくくと爆発的な感染を招き、短期間で集団的に枯死する恐れがあるが、被害の現状と予防策は。

答 昨年度の県の調査において、北部地域で、本市で初めての被害が確認された。今年度、さらに市全域に拡大して調査し、約300本の被害木が確認されている。

一般的な予防策として、被害木周辺の健全な樹木をビニールなどで覆う方法や被害木を燻蒸して原因となる虫や病原菌を駆除する方法などがある。しかしながら、感染を外観から確認することが困難なため、まずは森を若返らせることで感染が広がるにくい環境を整えることが重要と考えている。このため林野庁において具体的な研究が進められており、県とも連携して対応していく。



ナラ枯れした木

街路樹がある歩道の安全確保は



宮地 毅
新政クラブ
(80分)



問 街路樹は植栽後の経過年数とともに、大径木化により舗装を持ち上げるなど道路交通への支障が全国的な課題となっている。安心・安全な道路環境を整えるため、道路の使用に支障を来す街路樹の計画的な植え替えの考えは。

答 維持管理は専門業者に委託し、パトロールや剪定などを行っている。

植え替えは、これまで歩道の再整備に併せて実施してきたが大径木化に伴い歩行空間などに支障を来す街路樹が増加傾向にあることから今後計画的に検討していく。

※その他、新年度予算編成方針、防災・減災（抜本的な浸水対策の現状など）、シルバー人材センター（会員数の見込みや加入促進策など）、人口減少問題（未婚・晩婚化への対応など）、道路や歩道の整備（路面標示3か年集中対策での国、県、公安委員会との連携など）について質問しました。



大径木が持ち上げた舗装

スポーツパーク構想は



池上 文夫
市民連合
(70分)



問 実現に向けた広島経済同友会の取り組みが報道された。大規模イベントでの活用なども視野に施設整備を進めるとのことであるが、市長の率直な感想は。

答 本市の活性化につながる夢のある提案と受け止めている。

今後の地元経済界の取り組みを注視していく。



松永地域への企業誘致策と産業基盤の整備は

問 しまなみ海道などの開通により福山西インターは中四国の結節点としてもアクセスが良いが、どう活用していくのか。

答 主要な幹線道路網の整備で物流機能が強化され、中国・四国地方の拠点性と求心性がさらに高まったと考える。今後は企業立地のニーズや土地利用の現状を把握する中で新たな産業用地の創出を検討する。

※ナラ枯れ：カシノナガキクイムシが媒介する菌（ナラ菌）がコナラ、ミズナラなどのナラ類の樹幹内に入り込んで増殖することで、根から水を吸い上げる機能を阻害し、枯死させる病気